



I.計画山行、行事報告	1～5
II.その他行事等報告	5～11
III.今後の行事予定	12
IV.その他お知らせ	12～13

次年度の事業計画策定に伴い皆様から希望の山やイベントを募集します。
詳細は、「IV.その他お知らせ」をご覧ください。

I. 計画山行・行事報告

1. 紅葉山行

■ 10月2日(土)～3日(日)

- ・場所 涸沢～パノラマコース
- ・参加者 織田(C.L) 大幡 前川

今回は楽マツ三人組で緊張感無しのスタート。大幡さんの車でもりの里5:10スタート。福光5:40、高山市町方交差点6:50 あかんだな駐車場7:25到着。7:50濃飛バスに乗り換え上高地着8:20。ヤレヤレの気分でトイレを済ませ8:25朝もやの中を出発。車中同様、人格相応の馬鹿話をしながら9:15明神着。このころから空はすっかり晴れ渡り、青空にそそり立つ岩峰に「来たな～」という感じ。5分休んでまたスタコラ飛ばし徳沢園着10:10。小腹がすいたのでパン等をかじる。10:25出発。帰りに合流する新村橋で写真を撮ったりしながら横尾11:20着。さっき食べたが早くも消化したらしくここで昼食。ここは涸沢や槍の合流点でテン場や山小屋があり登山者で結構混んでいる。25分休み11:45出発。涸沢道に入ると徐々に勾配も増し、饒舌も減少気味。目先の屏風岩に「帰りはこの上だ～」との思いを強くする。本谷橋着12:55。本谷橋を過ぎた急坂あたりの行列に業を煮やした織田さんが、「これではテン場奪取は厳しい！」と一人猛然とラッシュをかけ、「お先に！」と言って行列をごぼう抜きにアレヨアレヨという間に去っていく。このあたりからナナカマドの紅

葉が素晴らしく、他の紅葉も楽しみながら休憩も交え涸沢着14:55。一帯はテントだらけで、織田さんは一体どこだんべ？と探すなかなか見つからない。漸く涸沢小屋方面の適地に、地面を必死に均している姿を発見し、感謝！感謝ヨクヤッタ！

テントを張り終えれば恒例の酒と肴で、近隣の女性テント陣が眉をしかめる話題等も含め、大いに盛り上がる。ぐっすり休みあくる日も晴天でニンマリ。近くに張られた一人用の土間付きテントに「理屈な～」と感心する。テントをたたみ7:10パノラマコースへ向けて出発。危険コースの割には80過ぎのおばーちゃんを含むパーティーがいたりして大渋滞。落ちればあの世行きの斜面を覚束ない足取りで登る姿はとても見えていられなくリーダーに「ヘーイカムバック！」といたいくらい。8:20漸く尾根に取り付き、適地で10分休むが、そこからほどなく屏風岩との分岐に着く8:40。ここでリュックを降ろし5分休憩し空身で屏風岩方面へ。9:10屏風の頭手前の屏風の耳に着く。屏風の頭へはバリエーションルートで一旦下らねばならず、取り付くもうっすらとした踏み跡の這松の急斜面で、下は

うす暗く不気味な感じで全員ビビって即決中止。今回は屏風の耳から眼の前の屏風の頭や北アルプスの大展望を眺めて満足する。「耳」で15分休み9:25出発。下山途中に先ほどの80過ぎのおばちゃんを含むパーティーが登ってきたのにはおったまげた。いやーなんとしぶといこと！ザックを置いた分岐に9:53着。小休止後10:00出発。登る際の尾根までの背景は涸沢だったが、これからは梓川を眼下に望む。ダケカンバや木々の紅葉が陽に映えてとてもきれい。途中20分ほど昼食休憩し奥又白池との分岐(松高

ルンゼ)着11:45。5分休み11:50出発。奥又白谷を途中10分程休憩しひたすら下り林道着12:37。ここまで下りればあとは安定した道路で新村橋着12:45。徳沢13:00ノンストップで明神着13:50。さすがに疲れここで800円の生ビール大を「プハー」と大呑みし天国。足の裏に豆が出来たのを感じながら喧騒の上高地バスターミナル着15:05。人気コース&天候+メンバーに恵まれた最高の山行でした。

(文 写真 前川陽)



2.H27年度第3回支部役員会議

■10月8日(木)20:00~22:00

・場所 金沢市総合体育館 第三会議室

・出席者(名簿順) 中川 前川 岡本 八十嶋 池本 田井 大幡 田中 樽矢 埴崎
村上 前田 織田 (13名)

・議題等

1.5支部合同懇親山行第1回実行委員会

①現在の応募状況・・・参加者52名(石川20 富山7 福井6 岐阜13 京都滋賀6)
及び内訳 男性42名 女性10名

登山36名(石川12 富山7 福井5 岐阜7 京都滋賀5)

観光16名(石川8 富山0 福井1 岐阜6 都滋賀1)

*登山の支部別チームの前後に石川の会員を各1名配置。

その他、臨機応変に対応できる会員を3名程度配置。

*観光については他支部者数と石川支部会員が同数のため会員全体で支援。

②本部設置の有無 あえて本部は設置せず、非常時はそれぞれのコース責任者で対応し相互で連絡。

③弁当・お茶の対応 食べやすく美味しい弁当を検討

④小倉谷山付近の刈込 別途事務局で実施日等を調整

⑥その他 人数の概要がまとまったので、再度旅館担当者と詳細な詰めを別途実施。

2. YOUTH CLUB 北陸支部（仮称）の立ち上げ

前川会員から youthclub の実態と活動状況の説明後、今季（H27.9）劔岳合宿に参加した、会員（前川、八十嶋）から概要報告あり。その中で、前川会員から野沢 youthclub 委員長から「本部としては支部単位の支援は経費的に困難だが、北陸でまとまってもらえれば可能」との話を紹介し、今後北陸支部創設に向け準備していきたい旨の提案あり。なお、同クラブ青年部の候補として現在、石川4名（男2女2）、富山3名（男1女2）、福井3名（男2女1）の存在を確認済み。

第二回役員会（H27.7.4）で提案された支部クライミングクラブと併せて今後検討していくこととする。

3. 「医王山山行企画書」関連

Youthclub 活動体験者からの支部還元策の一環として、八十嶋会員から提案あり。

紅葉登山を楽しむとともに、希望者には幕営とロープワーク技術等を講習する。

1. 日程 平成27年10月31日 テント希望者は11月1日まで

2. 場所 医王山ビジターセンターセンター集合で

- ・日帰り組・・・大沼～三蛇ヶ滝～トンビ岩～白兀山～しがら首～靦～大沼
- ・テント泊・・・大沼周辺でテント設営練習
トンビ岩でロープワーク、支点練習

3. 対象者 支部ビギナー及び親子登山参加者の希望者

4. 安全対策 山岳保険への加入、エスケープルートの設定、雨天時の講習場所変更、防寒対策

⇒審議の結果、今回は時間がタイトなこと等もあり募集対象者は支部ビギナーのみとする。

（以上、議事録：事務局 前川陽）

3.5 支部合同懇親山行

■ 11月7日（土）～8日（日）

- ・場所 小松市粟津温泉 「露天のゆ金閣」
- ・時間 11/7 15時集合

・参加者 宿泊47名 日帰り3名（11/8石川支部）

石川（宿泊17名 太田 大庭 岡本 織田 大幡 尾山 池本 関本 田井 田中
樽矢 津田 中川 長清 西嶋 埴崎 前田 11/8のみ3名 谷路
八十嶋 藤井）

富山7名 山岸、山田 木戸 金尾 渋谷 河合 石浦

福井5名 長谷川 船田 森田 江田 川口

岐阜12名 長屋 藤田 清水 武田 竹中 堀 高木 白木夫妻 影山夫妻 廣瀬

京都・滋賀 6名 田中 弊内 酒井 杉本 遠藤 大倉

恒例の五支部合同懇親山行も15回目を迎え、今年参加して開催された。
年は石川支部の幹事で11月7日・8日に小松市粟津温泉の「露天の湯金閣」を会場に、五支部47名が 今回の登山コースは石川支部の公益事業「ふるさと古道整備事業」の中心をなす、富士写ヶ岳～火燈

山（不惑新道）周回コースの中で、大内峠より火燈山（803m）を目指す。

この道は藩政時代には国境を守る大聖寺藩奥山廻りの道であり、また丸岡町の豊原寺の修験者の道でもあった故、福井支部の方にもなじみ深い山である。

11月7日 午後2時頃、会場ロビーに石川支部員が集合し、受付準備や配布資料のまとめを進めるうちに、早くも到着され午後4時からの講演会までは各部屋でゆっくりしてもらおう。午後4時からは記念講演。翌日登る火燈山の古道復活の第一人者である大庭保夫会員が旧大内集落の地主の了承を得て、着手からの苦労話や歴史背景、更に稜線通しの深田久弥所縁の山、富士写ヶ岳までの不惑新道についても講演した。「自分が選定して復興した古道には愛着が深い。苦労したという思いは無い」と締めくくられた言葉が印象的であった。

続いて石川支部顧問の津田文夫会員が1971年の石川支部海外遠征の「ティリチミール 7708m」の思い出をスライド講演した。色あせたスライドからは当時の大掛かりな事業の重みと歴史を感じた。

午後6時半から懇親会に移り、岐阜・富山・福井・京都滋賀支部からの差入れの日本酒は綺麗に飲干さ

れ、楽しい交流は二次会も続いた。

11月8日 心配していた通りの曇天。それでも雨はまだ来ないので、予定通り弁当を配り、登山班、観光班に分かれて行動開始。観光班は紅葉の那谷寺から深田久弥ゆかりの地を巡り、「深田久弥山の文化館」を訪れる。登山班は4班に分かれて火燈山を目指した。

晩秋の名残紅葉の中、尾根越しに富士写ヶ岳がなだらかな稜線を見せる。登山道わきには石楠花がもう来春の新芽を付けている。このコースの春は石楠花とタムシバの共演が美しく、秋は広葉樹の多さゆえ錦絵の世界で、人気の高いコースである。皆元気に話しあいながら登れば、曇天の山も楽しい。山頂に到着すると白いベールに覆われた加賀平野、日本海まで見えたので、まずは良しとして記念撮影。風が強いたので少し下り、「熊平」で昼食をとり、滑る足もとに気を付けながら、無事大内峠に下山した。

岐阜支部の高木支部長から来年は白川村の「どぶろく祭り」合わせて開催する旨ご挨拶を頂き、参加者全員さわやかな笑顔でここで解散とした。

（文 中川博人）



4. 山祭り

■ 11月28日（土）～29日（日）

・場所 吉野谷セミナーハウス

・参加者（9名） 池本 大庭保 織田 塚谷 小畑

突然の寒波襲来の中、午後5時半頃「吉野谷セミナーハウス」に着くと、すでに池本・織田シェフが調理の真っ最中で厨房の中は、美味しそうな匂いが漂っていた。何時もながらこの名コンビは、てきぱ

樽矢 津田 中川 藤井

きと調理を進め何とも頼もしく、感謝である。我々はテーブルの準備をするだけで、あとはそそくさと新中宮温泉センターへ。

ボイラー修復を終え、気のせいか以前より少し湯

温が熱く感じる。温泉で暖まりセミナーハウスに戻ると準備万端、早速乾杯となった。参加者が少ないのは少し寂しい気もするが、参加できる人が集まってくれたと考え直す。料理は各個人のおりに分けられ刺身や山菜が盛られ、池本さんのダシのきいたお



でん、織田さんの獅子鍋を囲み、この一年お疲れ様でしたの思いで中宮の一夜を過ごした。

改めて、池本、織田の両氏にはお世話頂き、御礼申し上げます。 (文：中川博人)



II その他行事等報告

1 第15回勤労者クライミング大会

■ 11月1日(日)

- ・主催 石川県勤労者体育協会
- ・主管 石川県山岳協会
- ・場所 医王山スポーツセンター クライミングウォール
- ・会費 500円/一人
- ・種目 ①一般 男子・女子(45歳以下)
②シルバー 男子・女子(45歳~59歳)
③ゴールド 男子・女子(60歳以上)
④オープン参加 15歳以上の全日制の学生及び小中学生
- ・参加者 樽矢 前川

指導員研修生として、県山協から当該クライミング大会参加要請を受け参加する。

当日はさわやかな秋晴れの元、スポーツセンター屋外壁に設置されたクライミングウォールの下に定刻

(9時)の30分くらい前からスタッフや選手が順次集まる。まもなくロープ設置を請け負っているKCウォールのスタッフが到着し、早速設置のため壁に取り付くが、そのムーブはスムーズにして華麗で、見ているとまったく簡単に誰でも登れそうな感じ。

(そうでないことはあとで判明するが。) 開会式や柔軟体操を終え、いよいよ如何に早く、より上まで



登るかの競技開始。我々2名は最上年齢のゴールド班。リードとトップロープのいずれにするかと問われ、お互いリードも少し頭をよぎったが、ここは分相応のトップロープで共に挑戦する。それでも仲良く第二関門の緩いハングで共に脱落し全然ダメ。全体を通してはオープン参加の小学生のクライミングが素晴らしく、40名近い参加者のなかで際立っていたのが印象的であった。クライミング体験と講習会では各プレイヤーの操作上の課題や自分のムーブと優良選手のムーブを比較研究する等、貴重な体験が出来た爽快な一日であった。 (文 前川陽)

2.平成 27 年度官民合同山岳遭難救助訓練及び指導員研修会

■ 11 月 28 日（土）～29 日（日）

- ・主催 石川県山岳協会
- ・場所 医王山スポーツセンター
- ・参加者 樽矢 前川

本研修も先の勤労者クライミング大会同様、指導員研修の一環として参加が義務付けられており、樽谷さんと参加する。二人とも都合で各一日（前川 28 日、樽矢 29 日）参加となる。

研修生は各山岳会メンバーや石川県警山岳警備隊の若手隊員で、隊員の規律正しいハキハキした態度には、こころが洗われる。

指導員研修生は、指導員として初心者の登山者に分かり易く説明しなければならず、今回はロープワークの実演と登山靴や服装の購入時の選び方や安全で疲れない歩き方等、事前の課題がいくつか与えられており、開講一番講師からそれらを講習生に説明するよう指名され、「エー」っと思っ

たが意を決して、黒板前に立つ。ロープワークはいろんな結び方があるが、以前、田中康典さんから教えていただいた結び方も交え、なんとか持ち時間をクリアする。そのあとは、講師からいろんなロープワークや搬送方法、セルフレスキュー等の指導を受ける。いずれもこれまでに受講経験があるものばかりではあるが、繰り返し受講することであいまいな記憶が定着し、その効果は高い。今回の指導員研修生は樽矢さんと私の 2 名のみで、明日の研修会でも冒頭から講師を指名されそうなので、その旨樽矢さんに伝える。今回は学ぶ効果も大きかったが、教えることで自分の理解がさらに深まった感じだった。（文 前川陽）

3. 支部長会議・110 周年記念式典・年次晩餐会

■ 12 月 5 日（土）

- ・場所 東京 新宿京王プラザホテル
- ・参加者 中川支部長 樽矢

12 月 5 日（土）の年次晩餐会に先立ち、御前 10 時 30 分より京王プラザホテル 4 2 階の「高尾」において支部長会議が開催された。議事は下記の通り要約して報告します。

1.平成 27 年度秩父宮山岳賞 「平出和也氏」

業績 世界的な山岳登攀と独自の技法による撮影実績

2.平成 27 年度名誉会員 該当者なし

3.平成 27 年度新永年会員 計 36 名が新永年会員になられた。

4.ネパール大地震救援募金について 10 月末現在で以下の通り。

★日本山岳会会員 ¥6,772,636

★会員以外 ¥18,818,658 （内訳：労山¥3,645,180 日本ヒマラヤ協会 ¥1,136,408 HAT-J¥508,936 日本山岳ガイド協会¥600,000 日本山岳協会 ¥5,540,600 アルパインツアー¥366,903 所属団体名記載なし¥6,220,631 山岳映画サロン¥800,000）

★全体合計¥25,591,294

●贈呈済額 ランタン谷復興・ロールワリン学校建設 ¥12,525,608

●贈呈予定 ランタン谷復興¥500 万円 ロールワリン学校建設¥250 万円
NGO カトマンドゥ緑の募金¥100 万円 HAT-J 焼却炉建設¥100 万円

●贈呈額計¥22,025,608

現在も募金口座に入金が続いているため、平成 27 年度末まで継続させる方針。

5. 登山道の情報提供について

国土地理院の処理手続きが簡略化され、複数台の登山用携帯 GPS による調査情報により（携帯電話及びスマホは不可）、更新時間の短縮が図られる。

登山道情報取得にあたっての留意点

国土地理院ワーキンググループ

1. 使用いただける機器について
移動した経路をGPS衛星により計測・記録する専用の装置（Garmin等）を使用してください。携帯電話・スマートフォンで取得したデータは対象外となります。
2. 位置情報を取得する際の注意点
 - ① 地図と現況が違う箇所の位置情報を取得する場合は、登山道の新設区間や経路が違っている区間だけでなく、地図に記載された登山道と現況が合致している一定区間を含めて位置情報を取得し、道路の接続関係がわかるようにしてください。
 - ② 廃道に関する情報は始点または終点の位置情報だけでは判断できませんので、これとは別に終点または始点の現況情報など廃道の確認できる情報を添えてください。
3. 現況写真について
地図に載っていない登山道や経路が違っている登山道の位置情報を取得する場合は、その区間の始点と終点の現況写真を撮影し、どの地点の現況写真かがわかる資料と一緒に提供してください。また、廃道や危険箇所に関する情報をお寄せいただく際にもその地点の現況写真を位置情報と一緒に提供していただくか、あるいは位置情報(exif)を記録できるカメラで撮影したものを提供してください。
4. 提供いただいたデータの取り扱いについて
 - ① GPS衛星を利用して位置情報を取得する場合に衛星や機器の状態によって位置の誤差が大きくなってしまう場合があります。そのため、同一箇所に関して複数以上の情報が寄せられ、位置情報の信頼性が確認できたものから順次地理院地図に情報を提供します。
 - ② 廃道情報は、廃道区間と廃道であることが確認できると判断できるデータは地理院に提供します。
 - ③ 地理院地図の登山道を更新したときはその旨を地理院HPに告知されます。
 - ④ 緊急性の高い情報が寄せられた場合は、①②によらず迅速に対応します。
5. データ提供方法について
取得した位置情報は、以下の情報を整理して「国土地理院対応ワーキンググループ」登山道変化情報担当 小松原勝久(jac-trail@jac.or.jp)あて送付してください。
 - ① 登山道変化情報メモ（別紙 登山道変化情報メモ用紙を使用してください。）
 - ② 取得位置情報ファイル
 - ③ 現況写真と撮影データ(撮影年月日・撮影位置・撮影方向、写真説明等)

以上

6. 「支部に関する規程」の改正

会員の所属支部登録の事務処理円滑化と本部・支部の整合を図る目的で「支部に関する規程」の一部を改正する。

★改正方針

1. 支部所属の届け出を総務担当理事から支部長に変更する。
2. 届け出の様式あり。支部からの届け出は、支部メール又は FAX を認める

3.支部長は所属支部異動状況を総務担当理事に報告する。
改正点は以下の通り。

「支部に関する規程」の改正について

(現行)

現行規程	手続き	現状
第13条 会員が支部に所属する時は、様式1による届出をしなければならない。	・会員が届出を作成し、所属支部長の確認印を受け、総務担当理事へ提出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・会員からの届出提出がなく、本部と支部の間で、登録している所属支部登録が一致しないという問題が発生している。 ・届出の提出徹底が現実的には困難なため、電話、口頭により本人の意思を確認して事務処理を行っている支部もある。 ・これに対し、本部は事務処理上の必要から支部に対し、本人からの届出の提出を要求しており、軋轢も生じている。
2 会員が所属支部を変更する時は、様式2による届出をしなければならない。		

(改正案)

改正案	手続き	改正の趣旨
第13条 会員が支部に所属する時（支部間の異動は除く）は、所属しようとする支部に対し、速やかに様式1の例により届出をしなければならない。 2 会員が所属支部を変更する時は、新旧両方の支部に対し、速やかに様式2の例により届出をしなければならない。 3 支部長は、前各項の届け出を受理したときは、様式3により、受理から1か月以内に総務担当理事に報告しなければならない。 4 会員の支部所属関係が明白な場合は、総務担当理事の判断で変更等の処理を行うことができる。	・会員は様式1・2の例により、郵送、ファックス、メール等記録の残る方法で支部に届出を提出する。 ・支部は、会員の異動状況を様式3により本部へ報告する。 この際、本人から提出された届け出の添付は不要とする。	・従来、支部所属に関する届出は、本人から本部へ提出する仕組みとなっていたが、会員の支部への所属に関しては、支部において責任を持って管理することとし、本部へは支部から報告するよう改めるもの。 ・長期間にわたって届け出が提出されないことにより、支部・本部における会員データの管理上支障が生じないように、様式を例示とすることで現実的な対応を可能とするもの。

7 平成28年度の支部助成金及び新入会員報奨金について

要約：平成28年度から支部助成金が現行の¥2500/1人から¥2300/1人に変更される。

新入会員報奨金については平成29年度まで同額とする。

支部助成金

支給基準	平成27年度まで	平成28年度	
支部運営交付金	会員一人当たり 1,000円	1,000円	・・共益事業目的
支部事業補助	会員一人あたり 1,500円	1,300円	・・公益事業目的
送金額	計2,500円	計2,300円	
基準日と会員数	2016年5月末会員数（ただし永年会員を除く）		

減額総額 当年度基準で3084名×200円=616,800円-

(2015年5月末対象会員数(永年会員を除く)3,084名)-

増加要因 神奈川支部新設 100名 × 2300円=230,000円

特別支部事業助成金(応募形式)増額=200,000円

平成28年度の経常赤字の解消に当てる金額 =186,800円

新入会員報奨金

対象 支部の新入会員数 毎年4月1日から翌年3月31日までの入会者

新会員一人当たり 4,000円 (平成25年7月理事会決定)

平成27年度実績 784,000円 平成28年度予算 800,000円

以上の理事会決定の後、支部助成金の減額等については、平成27年12月初に支部事業計画及び支部予算の作成依頼を伝達する際に、各支部に通知するものとする。

8. 会員制度に関する検討案（再生委員会）

要約：本会の現状に照らし合わせて、再生委員会では、（9月26・27日の支部合同会議で通達済）会員制度検討案を改訂4まで重ねてきたが、本部の財政状況も極めて厳しい状況なので、今年度内に支部等の調整を進め平成28年6月総会で永年会員制度の変更も含めて定款変更を行い、速やかに準会員制度を発足させる。

再生委員会（公益法人運営委員会検討後）

平成27年11月26日

会員制度に関する検討案 改訂4.1版（公益法人運営委員会検討）

大綱と方針

- 正会員について、会費及び入会金、その権利関係を改定することは、きわめて困難。
- 正会員を増加させることは制度改定などの努力が必要。短期間の対策では間に合わない。
- 正会員を増やすためには、会を知る人を増やし、すそ野を広げる必要がある。
- このため入会ハードルの低い準会員制度を設けることとする。
- 合わせて永年会員など会員制度の改定を行うこととする。

制度変更と定款変更の方針とタイミングについて

上記の大綱は、かなり前から日本山岳会の理事会の総意として形成されていたが、一部の支部における会友、支部友制度との検討に時間を費やしてきた。しかし、会費納付会員数の減少により財政状況も悪化するばかりであるので、当年度内に支部などの調整等を進め、新会員制度を定める定款変更を平成28年6月総会でを行い、その後、速やかに準会員制度を発足させることとする。

準会員制度に関する定款での規定は最小限にとどめ、詳細は理事会で決定する準会員規程で定めることにする。

定款の際には、永年会員制度など変更も合わせて行うことにする。また、新入会員の承認等についても、理事会でなく会長が行うことについても定款変更を行う。以上の変更は日本山岳会の改革を前進させ、会員数を増加させるために必須である。

永年会員制度に関する変更 40% (2%)

- すべての永年会員に定款改訂により年会費を6千円（実費相当額）とする旨を定める。
（平成27年10月の評議員懇談会において多数の評議員による意見があった）

終身会員制度に関する変更案（①、②、③案検討中）

- ①新規の終身会員は制度として廃止する。
- ② そのまま据え置く。
- ③一定年齢と一定額の寄付を条件とする新終身会員制度に改定する。

賛助会員制度の変更案（検討中）

個人、法人の賛助会員を増加させるために会員制度を一部変更する。
（会員サービス提供者にも賛助会員になることを認める）

夫婦会員制度の一部改定

夫婦会員制（配偶者会費減額）について、家族会員（子供等会費減額）制に改訂する。

準会員制度案 4.1 版

平成 27 年 11 月 26 日

1. 名称 準会員とする。(個人に限る)
2. 準会員資格期限 準会員は、3 年間以内に正会員に移行しなければならない。
正会員に 3 年以内に移行しない場合には、原則として除籍するが、
海外勤務や傷病などの場合、条件付で準会員の延長を認める。
3. 準会員入会金 5 千円、ただし、26 歳未満は準会員入会金を免除する。
正会員に移行する際には、15 千円(準会員入会金を支払った者は減額)。
(26 歳未満で正会員になる場合には入会金免除=現状どおり)
4. 準会員会費 6 千円、入会月により月割りあり。
(26 歳未満の正会員会費 5 千円は整合性をとるため 6 千円に値上げする)
5. 準会員資格審査 紹介者会員 1 名。(知人なき場合、面接した正会員が紹介者となれる)
6. 準会員資格制限 会員総会での議決権はない。役員及び各種委員会の委員に就任できない。
7. 会報「山」 郵送する。
8. 機関誌「山岳」 郵送しない。(有料販売とする) 送料別
9. 特典など 日本山岳会の開催する会員向け登山講習会に参加できる。
日本山岳会の開催する山行等に原則として参加できる。
会員総会を除く、会の各種行事(晩餐会を含む)に参加できる。
日本山岳会団体登山保険に加入できる。
上高地山岳研究所等の日本山岳会の施設を利用できる。
会員証を発行する。ただし、会員バッジは支給しない。
10. 準会員入会承認 会長が行う。
11. 規程等の整備 準会員規程(理事会決議)を設ける。
12. 支部助成金 支部に、準会員一人あたり、正会員と同額の支部助成金を支給する。
(平成 28 年度は、一人あたり 2,300 円の予定である)
13. 新準会員奨励金 一人あたり 2 千円とする。ただし、準会員入会金免除者を除く。
(正会員に移行した場合、通常の新入会員奨励金 4 千円を支給する)
14. 支部会友 支部の会友、支部友などの支部独自の制度は、支部の任意とする。
(支部において、準会員は、会員とほぼ同様の処遇である。ただし、
支部総会における議決権をもたない)

以上

以上が支部長会議で本部より提示された議案でした。

特に案件 7 及び 8 に関しては、9 月 26・27 日の合同会議の説明から 3 ヶ月の期間に、ここまで検討が進んだのかと驚き、石川支部で平成 27 年度総会以後、役員会でも審議している会友制度の検討と重複

する内容もあり、審議の中で意見進言しましたが、確定的方針に思えました。従いまして、本部との二重構造は避けなければならないと考えます。石川支部会友制度は当面本部総会の推移を見ながら、今後役員会で協議します。

年次晩餐会報告：午後5時から年次晩餐会に先駆けて、日本山岳会創立110周年記念式典が京王プラザホテル、コンコルドボールルームで行われ、皇太子殿下もご列席された。物故者への黙とう、会長挨拶のあと来賓を代表して「山の日」協議会会長の谷垣禎一氏と（公社）日本山岳協会の八木原会長が祝辞を述べた。続いて秩父宮記念山岳賞の平出和也氏表彰、尾上元 JAC 会長から110周年記念事業の報告があり、式典は粛々と終了。

そして祝賀晩餐会へと移り、新永年会員を代表

して、石川支部にもなじみの深い神崎忠男氏の軽妙なコメントで、一気に和やかな雰囲気となった。お酒が進むうち会員同士が肩を組み合う情景があちこちで見られ、同席の樽矢会員も旧知の友に会えたようである。

樽矢会員には今回図書交換会コーナーで深田久弥山の文化館製作のDVD「深田久弥物語」の販売をして頂き、改めて御礼申し上げます。

(文 中川博人)

4. 村田信親名誉会長感謝の集い

■ 12月6日(日)

- ・場所 金沢ニューグランドホテル
- ・参加者 井村 岡本 織田 埴崎 村上 前川
- ・参加山岳会 JAC石川 金沢山岳会 鶴来山岳会 松任山岳会 野々市市山岳会 石川山岳会 くらゆりクラブ 金沢山友会 加賀山岳会 北竜岳想会 北陸電力(株)山岳スキー部

石川県山岳協会村田信親名誉会長は、平成8年に県山協会長にご就任され、爾来、県山協の発展にご尽力されてこられました。本年82歳をお迎えし、去る4月に第一線を退かれました。今後は名誉会長として大所高所から県山協を支えていただきます。この度、当支部会員の高田和彦後任会長等、有志により「感謝の集いが」企画され、加盟山岳会員等60名近くによるパーティーが開催されました。冒頭、金沢山岳会の新氏が詩吟「富士山」を披露し、永井副会長の開会のことば後、高田会長から、村田名誉会長のこれまでのご功績に対する謝意等の挨拶があり、引き続き来賓挨拶後、村田名誉会長から富士山に登ったことや白山の室堂の神社に宿泊できた思い出等を交えた謝辞がありました。引き続き関戸金沢市山岳連

盟会長による乾杯後、料理と美酒の歓談となりましたが会場は往年の会員が多く、お互い久しぶりの旧交を温めあう光景があちこちで見られ、和やかな雰囲気にも包まれました。途中壇上では各山岳会の紹介や、写真撮影が行われ、全員には歌詞が配られ、それらをみんなで大合唱し、岳人魂を燃焼させました。最後に名誉会長への記念品として高田会長が選定・製作した名誉会長が以前富士山に登った際の額入り写真を贈呈後、亀田理事長の万歳三唱と本田副理事長による閉会のことばで楽しい会はお開きとなりました。

今回、村田名誉会長からは記念品として、明るく使いやすい山岳用ヘッドライトを帰りにいただき、私は勿論みなさんも大変嬉しそうでした。

(文 前川陽)

Ⅲ. 今後の行事予定

* 2月、3月の山行担当については、担当者の関本山行担当委員長が退会されたので、代理を八十嶋副委員長にお願いします。

各参加申込は指定期日までに事務局または各担当者までお申込みください。

集合場所等詳細は別途担当者から参加者へ通知します。

1. 雪山山行

■ 2月11日（木・祝）～13日（土）

- ・場所 北八ヶ岳 天狗岳
- ・担当者 八十嶋 大幡

2. カンジキ山行

■ 3月12日（土）

- ・場所 小松市大杉町 兜山
- ・担当者 田井 八十嶋

Ⅳ. その他お知らせ

1. 次年度の支部行事計画内容を募集します。

登りたい山や、各種イベント等なんでも結構ですが、これまでに行ったことのない山（山は同じでも季節やルートが異なれば構いません）やマンネリ気分が払しょくできるイベントをなるべく募集します。できれば時期（月）を指定していただければありがたいですが、なくても結構です。随時、事務局までお願いします。

2. 個人山行等報告のお願い

今年度の個人山行及び登山・自然保護等ボランティア活動の報告を事務局までお願いします。

(1) 個人保護関連

報告内容は、①月日（○月/○日～○日）②山名（白山等）③同行者がいれば同行者名（白山太郎）を提出後に登られた場合は追加報告で結構です。

(2) 登山・自然保護等ボランティア活動関連

報告内容は①月日（○月/○日）②活動名・場所等

*上記（1）（2）については、メールまたは郵便等で事務局まで提出ください。（郵送料については別途切手、葉書等で還元します。）

3. 役員改選に伴う役員募集

来年は役員改選時期です。あなたの素晴らしい能力を是非支部にご活用ください。応募を含めご相談等、いつでも事務局までお問い合わせください。

4. 支部退会者のお知らせと代務者

下記会員が支部を退会されました。（受付日：平成27年11月11日）

関本 邦晴さん（No.10870）

*なお、関本さんは副支部長でしたので残りの任期（H28.3.31まで）は
中川支部長が兼務します。

5. クライミングジム閉店のお知らせ

支部報第4号（H27.3.31）でお知らせしましたクライミングジム「ワイルドキャットボルダリングジム」は平成27年3月に能美市来丸町にオープンしましたが、残念ながらこの度閉店になりました。

6. 他支部の動向（埴崎さんから情報提供を受け、確認の上掲載しています。）

・京都・滋賀支部創立30周年記念式典・記念交流登山[H28.4.23(土)~24(日)]

比叡山延暦寺 山内延暦寺会館

記念登山 比叡山回峰行の道歩く

・四国支部「自然保護全国集会」[H28.7.16(土)~17(日)] *7/16~18は3連休です。

高知市 工石山(クイヤマ) 青少年の家

7. 新刊本の紹介

新刊本「私の中の深田久弥」の著者、「滝本幸夫氏」はJAC前北海道支部長で、ニペソツ山を介して深田久弥と知り合い、以降久弥の容貌、物腰、精神、文章、山を彷徨する姿勢等すべてにほれ込み、この度50年間にわたる交流を手紙や写真を交え、冒頭タイトルで上梓しました。本には昨年、山の文化館へ講演に来られた際に登った富士写ヶ岳や本年登った白山のことも書かれており、これらは大庭さんがすべてお世話され、関わった石川支部会員もたくさん出てきて大変楽しく読めますので是非ご一読ください。（購入ご希望の方は事務局までご連絡ください。）

当該本はJACの機関紙「山」（2015年12月号）の18頁にも掲載されています。

（発行）2015年10月 柏艚舎刊 B6判237頁 定価1,400円+税

以上

日本山岳会石川支部報
発行日 2016年（H28年）1月4日
発行者 公益社団法人日本山岳会
石川支部長 中川博人
編集者 事務局長 前川 陽
電話 076-232-3555
-mail isk@jac.or.jp